

Faculty of Law and Literature



Faculty of Education



Faculty of Medicine

SUAA

Shimane University Alumni Association

島根大学同窓会連合会 機関誌

March.2012 Vol.6



Interdisciplinary Faculty
of Science and Engineering



Faculty of Life and Environmental Science

島根大学同窓会連合会事務室

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学総務部総務課
TEL.0852-32-9725 E-mail:suaa@jn.shimane-u.ac.jp

SUAA

同窓会連合会



機関誌「SUAA」は、平成19年3月に第1号を発刊し、今回は第6号となります。

この「SUAA」は、同窓会連合会及び各学部同窓会の活動や母校島根大学のトピックスなどをお知らせすると共に、更なる同窓会活動の広がり大きく貢献する情報の発信として同窓会員の皆様にお届けするものであります。

同窓会活動の基本は会員相互の親睦と交流を図ることにありますが、同時に母校にとりましては、同窓会活動を通して母校と同窓会員の皆様双方の人的ネットワーク・良好なコミュニケーションの構築を図っていくことは母校と社会を結ぶ重要な資産であり、母校の存在価値を高めていくためには各分野で活躍しておられる同窓会員の皆様のご理解とご支援が不可欠であると考えております。

同窓会連合会は、このような同窓会員の皆様と母校とを繋ぐ役割を微力ではあっても果たしていきたいものと思っております。

同窓会員の皆様の同窓会活動への積極的なご参加・ご協力をお願いいたします。

島根大学同窓会連合会会長 江口 博晴

活動状況

第5回ホームカミングデーを開催

松江キャンパスでは、大学祭(泓風祭)に併せ、10月8日(土)に開催しました。当日は、約150名の同窓生、一般の方々を迎え、山本廣基学長、江口博晴同窓会連合会会長の挨拶を皮切りに、島根県出身の映画監督・錦織良成氏による講演会や、本学出身のトランペット奏者・山崎啓史氏とピアノ伴奏者・三浦芳男氏による演奏会が行われました。



錦織良成氏による講演会



山崎啓史氏と三浦芳男氏による演奏会

ふるさと島根県への想いや島根県が舞台となった作品「白い船」を制作するに至るエピソードなど、錦織監督の



山本廣基学長

幅広い見識や感性溢れる講演に、参加者一同聴き入りました。演題でもある「究極のローカルはグローバルになる」に共感し、地元への愛と誇りを新たにしたいと時でもありました。

その後に行われた演奏会では、ピッコロトランペットやフリューゲルホルンなど、日頃見ることの少ない珍しい楽器の紹介や演奏も交えた美しい音色の演奏に、日常の喧騒を忘れる豊かな時間を共有しました。

一昨年度に綺麗に改修された懐かしい旧100番教室で、地元出身の著名な映画監督や卒業生の華やかな活躍ぶりに触れ、懐かしい想いと共に母校への愛着を再確認しました。

出雲キャンパスでは、大学祭(くえびこ祭)に併せ、10月15日(土)に開催し、市民を含む約70名の参加がありました。山本廣基学長、佐藤利昭同窓会連合会副会長の挨拶に続き、井川幹夫副病院長から「附属病院の再開発について」、



大谷 浩医学部長

大谷 浩医学部長から「島根大学医学部の現状と展望」と題してそれぞれ講演があり、参加者は医学部及び附属病院における建物などのハード面だけでなく、高度先進医療及び地域医療を支える医師の育成への取組状況について熱心に耳を傾けていました。

講演会の後、参加者は6月に完成した新病棟の最新設備を装備する手術室、ICU、HCU、腫瘍センターや新たに設置された緩和ケア病棟など、患者さんのニーズに応じた満足度の高い医療や療養環境の整備状況を見学しました。

平成24年度活動予定

- 役員会／平成25年3月
- 第6回ホームカミングデー
時期・内容等については、今後、検討し、決定次第お知らせします。
- 機関誌第7号の発行／平成25年3月
- 学部同窓会への支援／ホームページの構築及び運用管理など
- 生涯メールサービスの実施



同窓会HP
<http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/>

活動状況

第5回ホームカミングデー(平成23年10月8日(土)開催)に併せ、法文学部同窓会では、法文学部同窓会交流会「東日本大震災・就職をテーマに同窓生と現役学生で語る会」を実施しました。その後の同窓会交流会にも現役学生も参加して大いに盛り上がりました。

同窓会名簿(2011年版)を発刊した他、同窓生からの投稿、同窓会の活動状況を伝える同窓会年報「淞春」第6号も発刊しました。

平成23年の主な活動状況は以下のとおりです。

◆法文学部同窓会役員会

平成23年4月23日(土) 於:島根大学

◆関西同窓会

平成23年6月11日(土) 於:グリーンプラザ大阪(大阪市)

◆在京同窓会

平成23年7月2日(土) 於:法曹会館(東京都)

◆同窓会名簿(2011年版)及び同窓会年報「淞春」第6号発刊

平成23年8月

◆第5回島根大学ホームカミングデー・法文学部同窓会交流会

「東日本大震災・就職をテーマに同窓生と現役学生で語る会」

平成23年10月8日(土) 於:島根大学及びレインボープラザホテル



同窓会交流会



平成24年度活動予定

- 法文学部同窓会役員会
平成24年4月21日(土) 於:島根大学
- 同窓会年報「淞春」年報第7号発刊
平成24年夏
- 第6回島根大学ホームカミングデー・法文学部同窓会交流会
平成24年10月6日(土)
於:島根大学他(日程は予定)
「就職をテーマに現役学生とOBの語る会」他



同窓会HP
<http://www.gaku-sei.net/l-douso/>

同窓生からの近況報告



生涯現役、困難に挑戦、社会貢献・奉仕

澤 須美夫

法文学部法学科第3期(1984年卒)

昨年、調査部門を立上げ、エコノミストとして、国内外の経済分析・産業調査に従事しています。大学での専門知識、社会人での得た知識・経験を総動員し、付加価値の有る分析・報告を行い、社会・経済を正しい方へ導く手助けをしています。生甲斐とは、強い意志を持ち、困難に挑戦し続けることと悟り、日々、努力・精進、時間を遣り繰り、情報収集、分析、勉強、世界動向監視等、挑戦に終わりはありません。一生の仕事として、気力、体力、意欲ある限り、続けるつもりです。今年は、アジア、中東を中心に海外視察を計画しています。

今後は、学位取得、人材育成、社会啓蒙活動、著作、講演等にも取り組み、公私共に、社会が直面する矛盾・困難の解決に携わり続けたいと思います。



社会人講義の講師としてお招きいただきました

上岡 融

法文学部社会システム科第19期(2000年卒)

2011年4月15日、一般教養『先輩に学ぶ島根大学のこころと形』特任講師として登壇する機会を賜りました。約100名の学生を前に、私の講義では「なぜ島根大学を選んだのか」「教育とは何か」「社会人とは」「ビジネスとは」といった、これから人生を考える上での基本的で具体的話をし、最後に教育基本法の理念に沿って「全員で達成を目指す」体験型研修を行い、見事達成することができました。

担当教官いわく「学生が、過去に例がないくらいレポート用紙を書き埋めていた」と仰ってくださいましたので、先輩としてお伝えするべきことは伝わったと確信しています。

(ジブラルタ生命保険(株) ライフプラン・コンサルタント、合併により2012年1月転籍)

活動状況

◇6月11日：役員総会

総会終了後、「教育学部の現状と展望」と題して教育学部長の伊藤豊彦先生の講演が行われた。

◇7月28日：同窓会広報誌「Leaf@同窓会」発行

◇8月9日：教育学部FD戦略センター「面接道場」
教員採用試験模擬面接に在松同窓会員が協力しました。

◇10月8日：第5回ホームカミングデー

島根大学ホールで開かれた全体会のあと第2食堂に会場を移し、学部との共催事業として『みんなと語ろう同窓会60年！』が行われた。その中で、「映像で振り返る 同窓会の歩んだ60年」では和田貞夫氏(S30卒)・織奥信男氏(S31卒)による話題提供があり、また「支部同窓会・各期同窓会活動紹介」では東京支部の伊藤範子氏(S46卒)と心理研究室S35卒同期生の永浜順子氏、小4課程S36卒同期生「友朋」の加田達也氏による報告があり、そのあとは和やかな懇親会が行われた。

◇1月17日：「同窓会誌 第63号」発行

今号は同窓会60周年記念号として編集したものである。



役員総会 教育学部多目的ホール

平成24年度活動予定

- 6月 役員総会(於 島根大学)
学生・教員によるプレゼンテーション
機関誌「Leaf@同窓会」の発行
- 7月 教師力パワーアップセミナー協力
- 10月 ホームカミングデー(予定)
学部・同窓会共同企画事業
(学生・教員・卒業生の交流会)
- 1月 「同窓会誌」No.64号の発行
3回生・卒業生の代表者会
- 3月 理事会



岡山県新見支部会

※各支部・卒業期・研究室(専攻)等の同窓会を開かれる折には、規定により祝い金を送っています。是非ご連絡ください。

同窓生からの近況報告



子どもの成長に期待!

下岡 博司

特別教科(保健体育)教員養成課程(1975年卒)

私は、平成22年4月から島根県立青少年の家(サンレイク)に勤務しております。私どもが小さい頃は、自然の中で後輩や先輩と一緒に遊んだ思い出が多く残っております。

しかし、現代の子どもは自然体験等が少ないと言われており、そのことが将来その子の価値観や生き方まで影響するという報告が国から出されています。サンレイクでは、これまでも自然体験や集団宿泊体験を通して各発達段階に応じた豊かな体験を子どもたちにさせる取り組みをしてきておりますが、今後一層強力で推進していきたいと考えています。

また、島根県が県民運動として推進している「ふるまい向上」の取り組みも行っており、礼儀、あいさつ、ルール、思いやりなどを持って研修生活を送ることに力を入れております。入所時に比べると退所時には、子どもたちが見違えるように成長している姿に感動を覚えることも度々です。

これからも子どもたちの能力を一層引き出せるように研修内容の工夫や指導に努めていきたいと思っています。

(島根県立青少年の家 兼 島根県立東部社会教育研修センター所長)



貴重な基礎体験を支えに

福島 彩

初等教育開発専攻(2010年卒)

私は平成22年3月、教育学部初等教育開発専攻を卒業し、現在、松江市立中央小学校に勤務しています。教員2年目、仕事の要領も少しずつつかめてきました。忙しい中にも充実感を得ながら、日々子どもたちと元気に楽しく過ごしています。

校内研究で「学習に向かうことのできる体づくり」に全職員で取り組み、体育の学習や校内環境の整備などを通して日々の生活の中で子どもたちの体づくりを行っています。

在学中の1000時間体験学修で、たくさん子どもたちと関わってきたことが支えとなり、自信をもって子どもたちの前に立つことができます。もちろんうまくいかないことも多々ありますが、子どもたちと共に悩み、笑いながら一緒に成長していく教師でありたいと考えています。

(松江市立中央小学校・教諭)

島根大学教育学部同窓会

〒690-4004 島根県松江市西門町1060 (教育学部FD)

Tel: 090-3746-3873

E-mail: e-donokai@edu.shimane-u.ac.jp (会報を年毎に定額で発行いたします。)



同窓会HP

<http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/edu/index.html>

活動状況

本同窓会は本部・中四国・東日本・関西・九州の5支部体制を採っており、輪番で支部総会を開催しています。平成23年は中四国支部の番で内藤篤会長(1期)の下、10月15日出雲のツインリーブスホテルで行われました。小林祥泰病院長、大谷浩医学部長の御臨席もいただき30名を超える同窓生が集い、夜遅くまで旧交を温めることが出来ました。

今回の支部総会は大学の『ホームカミングデー』の開催に合わせて行われました。地域医療支援学 谷口栄作教授(4期)の企画で行われましたが、同窓生、後援会員を含めて50名を超える参加者がありました。

平成23年の医学研究・医学教育奨励賞は以下の2名の方々に決定し、それぞれ20万円の助成を行いました。

- ◎島根大学医学部地域医療支援学講座教授 谷口 栄作(4期)
「地域医療交流サロン事業」
- ◎島根大学医学部附属病院小児科講師 鬼形 和道(4期)
「SBP2遺伝子異常症(脱ヨード酵素機能不全)の低身長発症機構の解明」



同窓会総会懇親会

平成24年度活動予定

- 平成24年7月 東日本支部総会(7月21日)
- 10月 ホームカミングデー
- 11月 医学研究・医学研究奨励賞/地域医療貢献賞公募
- 平成25年3月 同窓会報発行
年次総会
医学研究・医学研究奨励賞/地域医療貢献賞授与式



同窓会HP
<http://www.med.shimane-u.ac.jp/medicine/alumni.html>

同窓生からの近況報告



近況報告

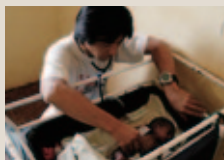
小出 博己

島根医科大学医学部医学科4期(1985年卒)

平成7年6月に隠岐病院に赴任しました。常勤医師数16名のうち毎年5〜6名の医師が代わる中で勤務長期となり平成23年4月に院長を拝命しました。

当院は隠岐諸島の島後に位置し、島後内で唯一の病院です。現在の病院は老朽化し狭隘であるため平成24年5月1日開院予定で新病院建設が進行しております。新病院では高次機能病院への緊急搬送のため屋上にヘリポートを備えます。また電子カルテも導入されます。

新病院開院で建物や検査機器は新しくなりますが、離島の地域医療を担うには医師、看護師をはじめ医療関連職のマンパワー不足が大きな課題です。島根大学および島根県の支援で、また限られた職員で協力しながら何とか地域に求められる医療機能の維持に奮闘しているところです。(隠岐病院 院長)



劣等生、母校に帰る?

加藤 寛幸

島根医科大学医学部医学科11期(1992年卒)

学生時代の不勉強が祟り、これといった目標も持たないまま医師としてのスタートを切りましたが、東京での就職を決め島根を去るその日の出雲空港で目にした国境なき医師団のCMが縁となり、その後、国境なき医師団の一員として、フィールドで、理事会で活動をして参りました。東京で就職して以来17年間、大学はおろか島根の地を踏むことはありませんでしたが、島根医科大学が大切な母校であると言う気持ちが変わることはありませんでした。こんな僕を医師に育ててくれた母校や諸先生方にどんな形でも恩返しが出来ればと願っております。

昨年くえびご祭の講演にご指名いただき、また今年は母校での講義の1コマを頂けることとなり、大変うれしく光栄に思っております。劣等生らしいお手伝いが出来ればと願っております。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、お願いいたします。

(静岡県立こども病院・救急総合診療科 科長/ 国境なき医師団日本 副会長)

活動状況

看護学科は今春10期生が卒業することとなり、看護学科同窓会さくら会の会員数も800名程度の大所帯となります。卒業生も10期になることを節目に、今年度は同窓会名簿を作成しました。会員たちの近況も様々で、看護師、保健師、養護教諭、教員が主ですが、国内のみならず海外でも活躍している人もいます。来年度は卒業生の支援を中心に活動を本格化していきたいと考えております。

また、昨年は大型の地震が起こり、日本中が悲しい思いをしました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。会員の中にも被害を受けられた方もいます。私たち同窓会員は看護学を学んだ専門家として、人として、被災された方々のためにできることがあると思っています。今年も被災された方々の力になれるよう同窓会でできることを行っていきたいと考えています。

引き続き来年度も島根県内、島根大学医学部附属病院の看護職確保の広報支援、差し迫りました新病棟増改築に合わせ「学内の緑化計画、散歩道づくり」の活動を行っていききたいと考えています。



平成24年度活動予定

- 平成24年5月 役員総会
- 平成24年6月～8月 各支部総会
- 平成24年10月 ホームカミングデー、10期卒業記念式典
- 卒業生、修了生を対象とした看護を語る会（不定期）



同窓会HP
<http://www.shimane-u-kango.jp/39.html>

同窓生からの近況報告



近況報告

井上 和子

島根医科大学医学部看護学科1期（2003年卒）

卒後4年間の附属病院での臨床経験を通し、家族看護の重要性を感じ大学院進学を決めました。大学院では、家族看護の視点から、患者さん自身が家族のサポートをどのように認識し、療養生活を維持しているかを明らかにすることができました。

修了後は他県で保健師を経験し、多様化された現代の家族単位の中、いかに人々が健康に過ごすことができるかを考える機会となりました。その後再び臨床に戻り、今年度新設された緩和ケア病棟で勤務しています。昨年11月には「島根県がん看護実践に強い看護師育成研修」にも参加させて頂き、様々な苦痛を持つ患者さんご家族に向き合おうと日々努力しています。

また、一度離れてみて、島根県の自然や、穏やかな人たち、島根大学が学ぶ環境として、とても思われていると感じました。病院実習や地域実習などでは、先生方は友人に支えられて、多くのチャレンジができました。そのチャレンジ精神は今なお自分の中に根付いており、看護に取り組む支えとなっています。（島根大学医学部附属病院緩和ケアセンター勤務）



近況報告

佐藤 美紀子（旧姓：原）

島根医科大学医学部看護学科1期（2003年卒）

私は大学卒業後、島根県立中央病院で看護師として4年間勤務しました。その後、大学院修士課程を修了し、現在は大学の臨床看護学講座の助教として研究、教育活動に携わっています。研究活動では、慢性疾患患者の自己管理の継続支援に焦点を当てた研究に取り組んでいます。研究活動を通して対象者とのふれあいや、一歩ずつ成果をあげることで得られる達成感など、研究の面白さを感じています。今後も努力を惜みず、実践に活かせる成果を積み重ねていきたいと思っています。教育活動では、看護学生の実習指導に携わっています。看護の対象となる人はとても複雑で、一つの方法が全ての人に当てはまるわけではありません。学生の意見によく耳を傾け、共に考える作業を通して学生の自己成長を促していきたいと考えています。卒業した愛着ある大学の教育に携わることができることを本当に嬉しく思います。

（島根大学医学部看護学科臨床看護学講座助教）

活動状況

昨年10月に開催された第5回ホームカミングデーには、多くの総合理工学部同窓会の皆さんが参加されました。例年参加者が余り多くないため、理事会で地元在住の卒業生の皆さんに呼びかけを行った結果と思われます。当学部の同窓生は全国に約1万人いますが、その約1割に当たる1300名近くの方が松江市を中心とした山陰地域に在住しておられます。今回は50歳以上の300名余りの方に手紙で参加を呼びかけましたが、次回はさらに若い方にも呼びかけをしたいと考えています。

その後開かれた学部主催の「学部長による学部紹介」や「学部見学会」にも多くの方の参加を得ました。理事会の後開かれた茶話会には、中尾征三東京支部副会長(文理14期卒)も参加され、思い出話に花を咲かせ和やかな一時を過ごしました。なお今年秋には東京支部大会(隔年開催)が開かれる予定です。多くの同窓生の皆様方のご参加をお待ちしています。



総合理工学部同窓会茶話会(平成23年10月8日)

平成24年度活動予定

- 平成24年5月
平成23年度卒業生の動向調査完了
(同窓会名簿の基礎資料)
- 平成24年10月
総合理工学部同窓会理事会の開催
総合理工学部同窓会茶話会の開催
(島根大学ホームカミングデーと同時開催)
- 平成24年12月～25年3月
総合理工学部入学予定者への同窓会入会案内送付
- 平成25年1月
平成24年度卒業生の動向調査開始
- 平成25年2月～3月
総合理工学部同窓会理事会の開催
- 平成25年度に同窓会名簿発行予定
(島根大学ホームカミングデー(大学祭期間中)に合わせて、同窓生相互の親睦を深めるために総合理工学部同窓会茶話会を開催します。詳細が決まり次第、総合理工学部ホームページに掲載しますので、是非ご参加下さい)



同窓会HP
<http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/riko/index.html>

同窓生からの近況報告



がんばろう島大生!

土井 誠

材料プロセス工学科3期(2002年卒)

私は総合理工学部材料プロセス工学科を卒業、総合理工学研究科の修士課程を修了後、松江市内の環境に関係する企業で働いています。

大学時代は木材やプラスチックのリサイクルに関係したことを学び、その知識が仕事を進める上でもしっかりと活かされています。年が経つにつれて、今行っている仕事はとても重要であるという理解が深まっていますが、大学で学んだことがきっかけとなり、やりがいある仕事に就けたことには非常に感謝しています。

また、島根大学からは現在新卒の採用が毎年できており、同じ大学出身のメンバーに対してはしっかりとがんばってほしい、という気持ちを強く持っています。

卒業生とも力を合わせて、生活環境を守り、そしてこれからの島根の発展に貢献していきたいと思っています。
(アースサポート株式会社)



近況報告

奈良井 健悟

電子制御システム工学科5期(2004年卒)

卒業後、島根県内の民間企業で7年間勤務した後、現在は公益財団法人ふるさと島根定住財団で勤務しています。定住財団では、UIターン支援、就職支援、地域活動支援の3つの事業で島根を活性化すべく日々業務に取り組んでいます。

就職支援の業務では、島根大学の学生やキャリアセンターの先生とやり取りをすることが頻繁にあります。母校への感謝の気持ちを込めて、在校生の皆さんが満足のいく就職活動ができるよう全力で支援していきたいと思っています。仕事を通して母校に関われることに日々幸せを感じています。

(ふるさと島根定住財団ジョブカフェ事業課)

活動状況

生物資源科学部同窓会は、主な活動として昨年に引き続き同窓生による公開講座を開催いたしました。同窓生による日ごろの研究の成果を発表し、同窓生どうしの交流を深める目的で始めた企画は3回目となります。講師として島根農科大学農林経済学科昭和34年卒業(第5期)岡山県真庭市在住の中山亘氏にお願いし、「幕末の名参政 山田方谷と藩政改革」という題名で備中の聖人・山田方谷の主として政治家、実践派財政家としての活躍と藩政改革成功の要因等について講演をいただきました。現在のような政治社会経済状況は、約160年前の幕末の方谷の時代に酷似しており、改革の必要が叫ばれているなか方谷の治績に学ぶことはテーマとして有意義でありました。その他、今年度は評議員会において同窓会活動の充実を図るため会報の発行を決定し、会報第1号を発行いたします。

平成24年度活動予定

1. 公開講座の開催
開催時期 平成24年6月
開催場所 松江テルサ大会議室
2. 同窓会名簿発行
4年に1度の発行
3. 生物資源科学部同窓会評議員会の開催
6月及び10月に開催予定



同窓会HP
<http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/life/index.html>

同窓生からの近況報告

信頼回復と会社再建を目指して

小川 澄男

農学部農芸化学科6期(昭和49年卒)



筆者は後列右から3人目

私は昭和49年に雪印乳業(株)に就職しました。当時の雪印は食品大手で乳業ではトップメーカーであり、それだけに驕りと大企業病がありました。2000年に私が千葉県の工場長を務めていたときに「雪印食中毒事件」が発生しました。その後2002年には「雪印食品牛肉偽装事件」も発生し、会社は転落の一途でした。

会社再建のために、銀行筋の債権放棄と役員総退陣があり、100人飛びで役員に選ばれました。事業分割、資本増強、信頼回復のための透明性のある企業統治等を10年間実施し、2011年春に合併し、雪印メグミルク(株)として再スタートしています。この間の活動を色々な場所でお話しさせていただきました。同窓も還暦を過ぎ、2010年秋には農芸化学科農芸化学工学研究室の同窓生が伊達先生、松井先生、持田先生を囲んで同窓会が開催されました。公私共に最後のひと頑張りをしているところです。

(雪印メグミルク株式会社 取締役常務執行役員)



近況報告

今岡 豊

農学部林学科8期(昭和51年卒)

昭和51年3月農学部林学科を卒業し、島根県経済連に入会、平成10年に統合した全国農業協同組合連合会(全農)島根県本部を経て平成19年から(株)島根ワイナリーに出向。平成23年6月から同社代表取締役を務めています。当社のワインは島根県産原料100%使用ですが平地の圃場が多く、近年の温暖化の影響を避けるため、標高450mの奥出雲町に自社園を開設し高品質ワインの製造を目指しています。輸入ワインの攻勢で厳しいワイン業界を、地元ぶどうから生まれたワインで勝ち抜きたいと考えています。

仕事の後の楽しみは、5~10kmのランニングで汗を流すことです。30歳の頃から体力づくりと晩酌を美味しく飲むために始めましたが、いつの間にか各地のロードレース大会で上位入賞するようになりました。そのおかげか昔とあまり体型が変わらず、走った後は頭脳明晰、爽快な気分です。現在は少しペースダウンをしましたが週に3日くらい続けています。肥満予防とボケ防止のため還暦になっても体力と気力の続く限り走り続けたいと思っています。

(株式会社島根ワイナリー 代表取締役)

活動状況

1. 会議・集会

同窓会員数の自然減と会員の高齢化のため、同窓会の機能が維持困難となり、旧制松江高校同窓会全国理事会は平成23年6月東京での開催を以て終会となった。

2. 同窓会員との連絡・情報交換

年に3回発行していた同窓会機関紙「翠松」の発行は、平成23年度末発行の102号を以て最終号となった。

3. 同窓会本部の活動

同窓会全国組織は無くなったので、山陰両県在住の会員で旧制松江高等学校同窓会の残務整理を数年間持続する予定である。従来開催してきた好評の松江寮歌祭に代わる松江ライン寮歌祭を規模を縮小して平成24年4月7日に開催する。



平成24年度活動予定

1. 定例の会議・集会

松江近辺居住会員による小集会(総会)を11月下旬に開催する。

2. 寮歌祭活動

松江ライン寮歌祭を4月7日に開催して、精神的青春復帰を計画する。

松江高校同窓会会員40名、他高校(友誼校)からの遠路参加20名を予定している。

会場は、ホテル一畑。



同窓会HP
<http://www16.ocn.ne.jp/~tsutsumi/matsue.html>

同窓生からの近況報告

近況報告

木村 勇之助 23期理甲(昭和20年卒)

新制大学同窓生による寮歌祭(旧制高校寮歌の伝承)

旧制高校の寮歌は戦前の寮生が作詞作曲した特色ある歌。旧制松江高校の寮歌も他校に劣らぬ優れた歌で各地の寮歌祭で半世紀に亘り歌われてきた。しかし旧制高校同窓生の高齢化に伴い、旧制高校同窓生を主体にした寮歌祭は衰退し、その存続が危ぶまれている現状にある。新制大学同窓生の中でこの寮歌を伝承すべきとの声が高まり、平成23年より上述の同窓生が主体となり、実行委員会を発足させ現実開催されるに至った。その例が平成23年8月7日に新宿の京王プラザホテルで開催された中央寮歌祭、同年11月20日に高崎で開催された上州寮歌祭、又12月18日に仙台で開催のみのく寮歌祭がその趣意を汲むものでそれぞれ盛況裡に実行され誠に遅く我々旧制高校同窓生も気力、体力の続く限り、これら寮歌祭に参加し、盛り上げていく意向である。茲に載せた写真は、上述の第1回“上州寮歌の集い”の情景。いずれも新しい試みであるが、旧制山形高校は山形大学が、二高は東北大学が、又四高は金沢大学が継承し、寮歌を伝承するという構図である。即ち各地域の新制大学同窓会が寮歌祭を開催し、寮歌が伝承されることが期待されている。島根大学においても旧制松江高校の寮歌をこの形で是非伝承して頂きたいものである。



第1回上州寮歌の集い 於高崎市(2011.11.20)
 筆者は左から二人目

趣味として追求めた蝶の図鑑の出版

延べ30年に亘る僻地での蝶のコレクションが書籍になり発売されました。人生の3分の1を掛けた採集記録は学術的にも貴重な資料となりました。掲載の写真は本年11月に来訪ありましたプータン国王夫妻がお土産として持参されたプータンシボリアゲハのタイ国産亜種の写真で木村コレクションの中に保管され、書籍にも掲載されている標本です。



恒例の学内レガッタを開催

松江市の大橋川において全長300メートルのコースを漕ぐ、毎年恒例の学生・教職員参加のボートレース、第54回学内レガッタが6月12日(日)に行われました。漕艇未経験者でも参加できるこのレガッタは、島根大学ならではの恒例行事として愛されており、当日はあいにくの雨模様でしたが、人気キャラクターに扮した仮装学生チームや教職員の有志によるチームなど24チームの参加



があり、通りがかりの市民等の観客も集まり大変な盛り上がりを見せました。旧制松江高校卒業生のチームや教員チームとの接戦も見られましたが、やはり若い力が勝利する結果となり、表彰式では賞品を手に喜ぶ学生の姿が見られました。

全国的にも珍しい、市街地でのコースで行われるこの学内レガッタは、松江の風物詩としても広く市民に愛されています。



医学部附属病院新病棟完成

医学部附属病院では、6月25日に入院患者約130名の病室移転を行い、6月27日から新病棟を開院しました。新病棟は、教育に関するエリアをまとめ、教育・研究環境の充実や、腫瘍センター、無菌病棟・緩和ケア病棟、手術部門・救急部門の整備など病院機能を格段に強化するとともに、さらに良質なアメニティを提供し、より一層効率的な病院運営を目指すこととしました。

また、既存病棟、外来・中央診療等においても改修を行い、優れた医療人の育成と新しい医療の研究開発にこれまでも増して大きな成果を上げるとともに、県内の医療機関などと連携を図り、患者のニーズの多様化など医療を取り巻く環境の変化に適切に対応して、島根県はもとより中国地方の地域医療にさらなる貢献することになりました。



三村大輔さんがアジアロープスキッピング選手権大会 フリースタイルで優勝

7月22日から7月24日まで韓国で開催された第6回アジアロープスキッピング選手権大会において、大学院教育学研究科の三村大輔さんが15歳以上男子の部フリースタイル競技で優勝しました。

ロープスキッピング(縄跳び)の競技(個人戦)には、30秒かけ足跳びスピード、3分間かけ足跳びスピード、三重跳び、フリースタイルの4種目があり、フリースタイルは、1分15秒以内で、音楽に合わせて様々な縄跳びの技を組み合わせた演技を行うものです。

今回は、フリースタイルの部で優勝のほか、三重跳びの部で準優勝、4種目の個人総合でも準優勝しました。三村さんは「練習通りの演技ができず、ミスが多く出てしまったが、第1位で名前が呼ばれた時は本当にうれしかった。失敗をしても勝てたというのは大変自信になった。来年、アメリカで開催される第9回世界ロープスキッピング選手権大会でもメダル



を獲得したい。また、この競技で経験したことを多くの子ども達に伝えていきたい。」と意欲をみせていました。

なお、三村さんは、前回アジア大会(2009年)でも個人総合で準優勝しています。





広島オフィスを開設

10月26日、広島市中区に「島根大学広島オフィス」を開設しました。

広島オフィスは、広島にいながらにして島根大学の情報にダイレクトにアクセスするとともに、交流の場としても活用していただくための施設です。

昨今の大学を取り巻く厳しい状況下にあって、この施設を基点に新たな学生の確保に繋げたり、在学生の進路・就職のサポートや、産学連携の拠点として研究・事業に関する情報提供・相談などを行っていますので、ぜひご利用ください。

- 所在地
広島市中区立町1-23 ごうぎん広島ビル4F
- 開室日
火曜日～土曜日(日・月・祝日は閉室)
- お問い合わせ
島根大学教育学生支援部
教育・入試企画課
TEL 0852-32-6073
FAX 0852-32-9726



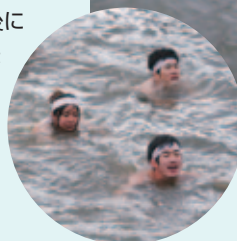
水泳部が伝統の寒中水泳を実施

水泳部の恒例行事である「寒中水泳」が、1月11日(水)に実施されました。

今年は、男子10名、女子2名の部員が参加し、寒さと水の冷たさに耐えながら大橋川を泳ぎました。水泳部員たちは、顧問の青山教授から激励を受け、準備体操を行った後、松江大橋南詰の川岸から気合を入れて入水し、約140m先の松江大橋北詰の川岸を目指し泳ぎ出しました。

当日の天候は曇り、気温6.5度、水温4.8度、風がやや強く波高が10cm程度で川の流れも速いという状況の中、掛け声をかけながら泳ぎ、対岸へ最後に泳ぎ着いた部員が5分46秒でした。泳ぎ終えた部員たちは、肌が真っ赤になり寒さに震えながらも泳ぎきった喜びでいっぱいでした。

寒中水泳は水泳部の伝統行事として48年以上も続いているもので、水泳技術の向上とともに、精神の鍛錬を目的として実施されているものです。



次期学長候補者に小林祥泰理事が決定

山本廣基学長の任期が平成24年3月31日をもって満了することに伴い、12月15日(木)、学長選考会議において次期学長候補者の選考を行い、小林祥泰理事(医療担当/附属病院長)を次期島根大学学長候補者として決定しました。任期は平成24年4月1日から平成27年3月31日までの3年間。

小林理事は、昭和21年生まれ。平成5年11月島根医科大学医学部教授、平成8年9月島根医科大学保健管理センター所長、平成15年10月島根大学医学部教授、平成17年4月島根大学医学部附属病院長、平成18年4月から現職。専門は神経内科学。島根県出身。

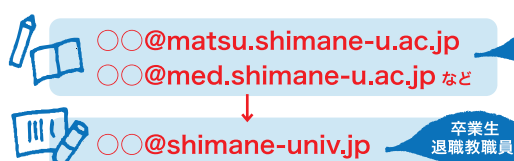
《島根大学からのお知らせ》島根大学生涯メールサービスのご案内

本学では、卒業・退職後もご友人や本学との繋がりを大切にいただくために、生涯メールサービスを行っています。生涯メールサービスに登録すると、島根大学の名を冠したメールアドレス(ドメイン)を取得でき、島根大学からのメールマガジンを受信できるなどのサービスを無料で受けることができます。詳細や申込方法等は、本学ホームページの「大学紹介」-「広報」-「生涯メールサービス」をご覧ください。不明な点がございましたら、右記にお問い合わせください。(裏表紙に詳しく紹介しています)

●事務担当
総務部総務課広報グループ
電話 0852-32-6603
ファックス 0852-32-6019
Eメール suaa@jn.shimane-u.ac.jp

生涯メールサービスの仕組み

島根大学の名を冠したアドレスを、
生涯・無料で利用できます。



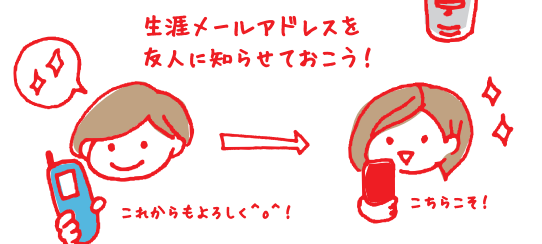
※学生の場合、在学中は○○の部分に学籍番号が入ります。
卒業後であれば、○○の部分は希望のアカウントに変更可能です。
卒業後、生涯メールアドレスは自動的に付与されます。

生涯メールの転送サービスを受けるためには、最低1つの
転送先アドレスが必要です。
(転送先は **最大3ヵ所** まで指定できます。)

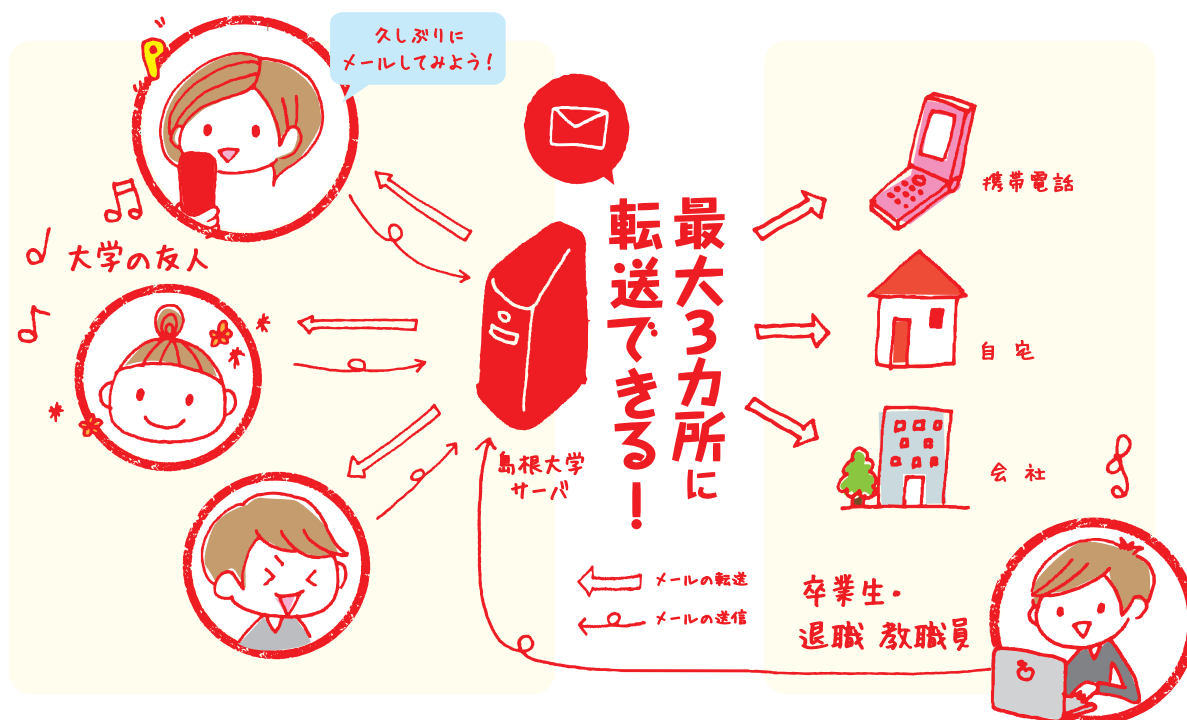
※転送サービスは、卒業後に開始するサービスです。
在学中の転送サービスについては、
総合情報処理センターのホームページをご覧ください。

生涯メールは島根大学のサーバーに送られた後、
所定のアドレスに **転送** されます。

※この時、サーバーはあくまで転送のみを行い、
メールの保存はしませんので、
個人情報が出ることはありません。



卒業・退職後もずっと連絡を取り続けることができるよ。



人とともに 地域とともに
国立大学法人

島根大学